

図書案内

2021 年 11 月号

担当 1-5 鍋田 1-6 日吉

音楽に関する本

秋といえば芸術の秋。今年は「ラ・カンパネッラ」や「愛の夢」などで有名なフランツ・リストが生誕 210 周年、「交響曲第 9 番〈新世界より〉」で有名なアントニン・ドヴォルザークが生誕 180 周年を迎えます。また、11 月 3 日は文化の日です。そこで、今回は芸術のなかでも特に音楽に関する本を紹介します。音楽に興味がなくとも楽しめる本もあります。ぜひ一度、図書館へ足を運んでみてはいかがでしょうか？

『羊と鋼の森』 宮下 奈都

高校生のときに偶然、ピアノの調律師である板鳥と出会い、その調律に魅せられた外村。養成学校で学んだ後、調律師として板鳥と同じ店で働くようになる。そこでピアノの上手な姉妹や個性あふれる先輩たちと出会い、音と向き合い続けて成長していく。とても温かく感動的な作品である。また、2016 年に第 13 回本屋大賞を受賞し、2018 年には映画化されている。ぜひ一度、読んでみてほしい。(日吉)

才能があるから生きていくんじゃない。



『知ってるようで知らないクラシックおもしろ雑学事典』 音楽雑学委員会

弾くものを次々と不幸にする「チェリーニのヴァイオリン」。16 世紀につくられた怪しいほどの表現力を持つこの楽器を手にした人は、魂を食られるように演奏に夢中になり、原因不明の高熱や、精神に異常をきたし、やがて亡くなるという症状に見舞われます。しかし、1840 年に、慈善演奏会をしたことによってこの呪いは解かれました。諸説ありますが、クラシック音楽に関する様々な雑学が詰まっている楽しい一冊です。(日吉)

貧しい人々のために演奏することによって、楽器の呪いを解くことができたのです。



『蜜蜂と遠雷』 恩田 陸

三年ごとに開催される芳ヶ江国際ピアノコンクール。主人公はそれぞれに事情を抱えて大会に臨む四人の天才たち。様々な葛藤を乗り越えた先に彼らが見出すものとは。またコンクール、本選出場を果たし、優勝するのは誰なのか。文章を読んでいるだけなのに、曲が流れてくるように感じるほどの圧倒的な表現力にも着目して読んでほしい。読了後、クラシック音楽を聴きたくなる一冊。(鍋田)

「——じゃあ、音楽を連れ出すには？」



『世界の国歌・国旗』 弓狩 匡純

この本では、世界各国の国歌や国旗が紹介されています。国歌の和訳や国旗の成り立ちとその意味だけでなく、国の概要なども詳しく載っており、その国の性格や歴史などにも触れることができるという一石五鳥ぐらいの内容となっています。今夏の東京オリンピックに続き、2022 年 2 月には北京オリンピックが開催されます。国際的な大会が盛んなこの機会に、世界中の国歌や国旗について知ってみては？(鍋田)

国歌は人々の声であり、国旗は顔です。

植物はクラシック音楽が好き？

今の時代、勉強中や睡眠前に音楽を聴く人は多いと思います。ゆったりとした音楽を聴くと落ち着き、テンポの速い音楽を聴くとテンションが上がりますよね。実はこれが植物にも言えるというのです。ある研究では、クラシックを流した部屋で植物を育てるとスピーカーの方向に向かって伸びていき、ロックを流した部屋で植物を育てるとスピーカーとは逆の方向に伸びていったそうです。さらに研究を進めると、植物は打楽器の音を好まないことや、クラシック音楽の中でも特にバッハの曲がより植物の成長を促進することが分かりました。植物の成長に関しては科学的に完全に証明されていないものもありますが、近いうちに植物栽培にはクラシック音楽をかけるのが当たり前という日が来るかもしれませんね。

【参考】国土緑化株式会社 HP <https://www.kokudoryokuka.co.jp/column/597/>